

# 安住寺だより



# 禅の心

第150号

発行 安住寺（年4回発行）  
 臨済宗南禅寺派  
 大分県杵築市大字南杵築379  
 〒873-0002 TEL 0978-62-2680  
 編集 矢野明玄  
 印刷 安住寺コピー室  
 URL <http://www.anijui.net/>

## しゅじょうほんらいほとけ 衆生本来仏なり

「暑さ寒さも彼岸まで」ようやく春本番となりました。桜も間もなく満開となります。春の恵みも次々と出て、食卓に彩りを添えてくれます。自然の恵みに感謝です。大地の大きな「いのち」に生かされていることを感じる芽吹きと成長の季節です。

それにつけても、どうして人間は愚かで我ままで、醜い生き物なのでしょう。世界中で起きる事件・事故が即座に知ることができるといっても、余りにも理性の無い、動物にも劣る行動ばかりで嘆かわしいばかりであります。なぜ？どうしてなのか良く分かりません。皆さんも同感でしょう。

### 無縁供養 説教会

27日 午後一時 卒塔婆供養  
 (月) 午後二時 説教  
 28日 午前十一時 合掌会総会  
 (火) 午後一時 卒塔婆供養  
 午後二時 説教  
 午後三時半 総供養施餓鬼

布教師 滋賀県高島市 西江寺住職  
 稲葉隆道師

卒塔婆供養料、一本五百円です。出来るだけ事前の申込をお願いします。

「又もやおぞましい事件が発生しました。子供が人殺しをしたのです。連続して起きました。「殺して見たかったから」とか、しやくにさわつたとか、理解できない理由です。インド大乘仏教の一派が唱えた阿頼耶識(あらやしき)という考えがあります。人の深層心理です。

①ひそむ ②おさめる ③執着するという解釈で、身体の中にひそんで過去の業(ごう)が種子となつて意識の根底におさめられている。さらには、山河大地といった自然界が生じ、あらゆる存在は決して自己の心を離れないと言う考え方です。

人間には、はるか遠い過去から動物を殺して食べたり、戦いで人を殺したりした歴史があります。今は、魚や鳥や牛・豚などを平気で食べています。自分が手をくださないとは言え、間接的には殺生しているのと同じです。阿頼耶識の考えでいくと誰しも人殺しをする可能性、種を持つているとも言えます。

しかし、多くの人々は簡単に人殺しなんかしません。殺したいと思うことがあつても実行はしません。それは、自律心が働いてコントロールできるからだと思えます。当然と言えば当然なのですが、コントロール

出来ないところに悲劇が起こっているのではないのでしょうか。今こそ善悪のけじめを付ける道徳と、慈悲を説く宗教こそが必要なのだと、更に認識を深めたいと思うのです。

### 法句経第一八三番

ありとある 悪をなさず  
 ありとある 善きことは  
 身をもつて行い  
 おのれの心を 清めんこそ  
 諸仏のみ教えなり

「神仏を信じない」とか「私は無宗教だ」などと言う人がいます。信教は自由ですが、最低の道徳心は絶対に必要です。宗教が何かを知らず無宗教を主張するのは如何なものでしょうか。

人間の意識の根底には、悪いものばかりではありません。憐れんだり同情したり、手を差し伸べたりするやさしい優しい心があります。慈悲の心です。全ての人々、生きとし生けるもの全てに仏心仏性が有ると仏教は説きます。分かりやすく言えば良心であり慈悲心です。

白隠禅師は、坐禅和讃に『衆生本来仏なり、衆生の外に仏なし・此の身すなわち仏なり』と説いています。南無 なむ ナム・・ (閑栖)

# 「四年目の春」

行く川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と住みかと、またかくのごとし。

玉敷きの都の内に、棟を並べ、いらかを争へる、高き、卑しき人の住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家はまれなり。あるいは、こそ焼けて、ことし造れり。あるいは、大家滅びて、小家となる。住む人もこれに同じ。所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二・三十人がうちに、わづかにひとりふたりなり。朝に死に、夕べに生まるる習ひ、ただ水のあわにぞ似たりける。

知らず、生まれ死ぬる人、いつかたより来たりて、いつかたへか去る。また知らず、仮の宿り、たがためにか心を悩まし、何によりてか目を喜

ばしむる。そのあるじと住みかと、無常を争ふさま、いはばあさがほの露に異ならず。あるいは露おちて、花散れり、残るといへども朝日に枯れぬ。あるいは花しほみて、露なほ消えず。消えずといへども夕べを待つことなし。



あれから四年、やつと四年、まだ四年・・・様々な思いを胸に東日本大震災から、被災者をはじめ私たちは時を過ごしてきました。冒頭ご紹介したのは、人の世の無常を綴った有名な『方丈記』の序文です。

『方丈記』には、平安時代末期から鎌倉時代初期かけ、平家源氏北条氏と政権が移り変わる戦乱の中、安元の大火、治承の辻風、福原遷都、養和の飢饉、元暦の大地震の五つの災害が描かれています。ここ数年来の自然環境、政治・社会は方丈記の時代背景と似ているように思います。

先日、震災四年目のテレビ特番であれほどの衝撃と悲しみを受けた震災の記憶が、復興にともない震災直後の情景が変わり、亡くなった大切な方を思い出すことができなくなってきた、映像や写真を見返すことをしなければ記憶が薄れしまつていく被災者の現状が放送されていた。

悲しみが薄れていく一方で、忘れてはいけない記憶を忘れつつある、その間で葛藤しているように見えた。人の心もまた移りゆくもので無常である。

禅では「父母未生以前の本来の面目とはなにか」と自己を探求する。

探せども探せども往きつかず。私自身も無常な存在であることに気付き、只々あるがままの私に還り着く。

「生れ死ぬる人いつかたより来りて、いつかたへか去る。」

去来はどこにも無い。大切なことは本来の面目に気付き、今があるがままに生きることではないでしょうか。

一日でも早い復興を、心の春を願うばかりです。

## 法句経

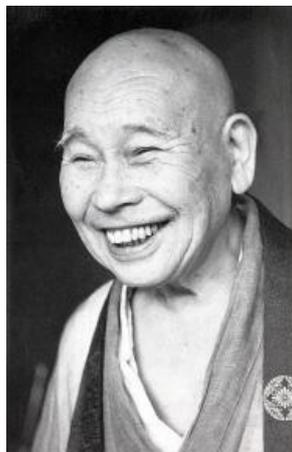
百九十一

- くるしみと 正見
- くるしみの 正思惟
- おい立ちと 正語
- くるしみの 正業
- 離脱と 正命
- くるしみの 正精進
- 滅尽に導く 正念
- 八つの聖道 正定



## 「堪え忍ぶ」

慶応二年（一八六六年）に紀州湯の峯、現在の和歌山県田辺市本宮町の旅館の生まれで、白隠禅師の再来といわれた山本玄峰老師がおられる。



玄峰老師は二十歳のときに眼病を患い長い治療の甲斐なく不治の宣告を受け、自殺を考えるほどであった。その後、弘法大師の徳にすがって眼病を治そうと、はだして七回も四国遍路をしたが良くなることもなく、七回目の十三番札所・雪隠寺で倒れ拾われた。

雪隠寺の山本太玄和尚との縁で仏門に入り、全国各地で修行をされて五十歳で白隠禅師のゆかり三島竜沢寺の住職になり、妙心寺の管長もお勤めになった。

昭和二十年太平洋戦争も末期症状を

呈した頃、枢密院議長から内閣総理大臣となった鈴木貫太郎首相と一度面会されており、終戦に際して玄峰老師が鈴木貫太郎首相に

「貴下の本当の御奉公は、これからであるから先ず健康に御注意され、どうか忍び難きをよく忍び、行じ難きをよく行じて、国家の再建に尽くしていただきたい」との書簡を送られたという。

そして終戦を迎えた八月十五日、天皇により詔勅が発せられた。その一節に、

「惟フニ今後帝國ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ表情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ビ以テ萬世ノ爲ニ太平ヲ開カムト欲ス」

とあり、山本玄峰老師の書簡が鈴木首相を感化し起草されたといわれている。

今年には戦後七十年の節目の年であり、安倍総理大臣も有識者会議を開き新たな談話を出す予定で、注目して

いる。

戦後本当に多くの先人のお陰で現在の発展があるわけだが、今日の私たちは詔勅に云う「堪へ難キヲ堪へ忍ビ難キヲ忍ビ」の本意を忘れ感謝することのない自由主義に走っているように思えます。

この「忍び難きを忍び行じ難きを行じ」ということは、山本玄峰老師のことではない。初祖達磨大師が弟子を訓戒された言葉の中に「諸仏無上の妙道、曠劫に精勤して、行じ難きを行じ、忍び難きを忍ぶ、豈小徳小智、輕心慢心を以て真乗を冀はんや」とあるのによつたものである。

さて私の道号は山本玄峰老師と同じ玄峰であります。彼岸へ到る六つの徳目に忍辱波羅蜜（苦難や他者からの迫害に耐え忍ぶ行）があります。

詔勅と玄峰老師のいわれと、忍辱波羅蜜の教えを戦後七十年またお彼岸の時期に合わせ考えたところであります。

【参考文献】紀野一義『禅現代に生きるもの』

NHKブックス昭和六一年

第六章日本の禅匠たち

p202~206

## 《日々是好日》

●あつという間に春の彼岸を迎えます。一月十七日の大般若には部内の和尚様にお越しいただきご祈祷できました。●一月二月と寒い中も早朝坐禅会の皆様には元気に参加いただき、皆さんと一時の仏になつております。●三月六日啓蟄の日には娘が七歳を迎えました。女の子らしくなり嬉しく思っております。寺族一同もお陰さまで元気に日々勤めております。●三月七日、一緒に修行した仲間の和尚さんの結婚式に、宇和島まで行ってきました。仏前での厳かな結婚式でした。安住寺でも仏前結婚式ができます。良縁をむすんでみませんか。●三月二十七日、母校杵築高校の剣道部男子が全国選抜大会に初出場します。活躍を期待しております。●五月十八日から三日間、本山で住職研修会があり管長猥下が臨済録を講義されます。月一回通年で講義とのこと。益々精力的で頭が下がります。



廣石碩田先生筆 ご希望の方に差し上げます。

# 「幸せに生きる」って

東日本大震災・原発事故から四年が経ちました。政府の発表では、復興はかなり進んでいるとのことですが、被災者の方々は「歯がゆい、遅すぎる」「全然先が見えない」と言う声が大半のようです。長引く避難生活の中で亡くなられた『被災関連死者』は、三千人を超すと聞きました。一時は助かったのに「あの時死んでたら良かった」と呟く人の声も聞こえてきます。

家や工場は再建できたが、二重のラインを抱えてこの先本当に幸せつても聞こえてきます。

有るのだろうか？と、日々を過ごしておられる方が殆どではないでしょうか。その内きつと幸せになりますよ。と、簡単には言えません。

積尊は「この世は『苦』である」と説かれました。また、「苦の中に『楽』有り」とも言っています。被災の体験が無いので軽々に言えませんがいつの日かきつと有ると信じて、その日その日を生きていくしかないのではないのでしょうか。これまで生きてきた証や故郷を捨てることは、死ぬほど辛いことだと

思います。...

## 東日本大震災義援金報告

### 26年度の支援結果

物品購入代金 102,848円  
(内お賽銭 87,083円)

今回の支援は、陸前高田市の物産を購入し、寺の行事に参加された方などにお配りしました。

これまでの合計金額 867,494円  
(内お賽銭 447,885円)

今後もお賽銭の全額を義援金として、支援に充てますので引続きご協力をお願いします。

錦江橋架け替え工事  
今年度で橋脚が完成の予定です。



## 沖縄へ慰霊に行きませんか

今年は、終戦七十周年目に当たります。二百数十万人もの尊い人命が失われました。八月十五日には戦没者の供養をします。また、地上戦で多数の住民が犠牲になった沖縄へ慰霊の旅を企画しました。六月十八日より二泊三日の予定です。十名位を考えています。参加ご希望の方は、お早めに閑栖和尚までお申し出下さい。詳細は検討中です。

## 行事予定

場合によって、変更することもあります。

御詠歌	五月七日	四月二十八日	四月二十七日	四月二十五日	四月二十一日	四月十七日	四月十一日	四月八日	四月七日	四月六日
5/11、5/18、6/6、6/17、7/6、7/17	独秀流御詠歌全国大会	合掌会総会・説教	無縁供養・説教会	坐禅会(朝六時)	写経・写仏の会	御詠歌・観音講	坐禅会(朝六時)	花祭り(降誕会)	独秀流御詠歌	木付親重公ご命日
坐禅会										
5/9、5/23、6/13、6/27、7/11、7/25										
写経会										
5/21、6/22、7/21										



上の写真は昨年の様子です

### 今年もお花見をしますヨ!

4月2日お屋頃 藤ノ川中尾の桜園でお花見をします。閑栖和尚が行きますので、おにぎりや飲み物持参でお出かけ下さい。(雨天の時は晴れ次第)